

2019年度 臨床工学技士科 実務経験を有する教員による授業科目の一覧

| 科目名 | 学年 | 規定時間数 | 担当する教員の实務経験 | 授業内容 |
|-----------------|----|-------|----------------------------------|--|
| 臨床工学概論 I | 1 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 実際に臨床で使用されている機器について必要な知識を身につける。また、臨床工学技士の扱う機器について理解を深め、将来臨床工学技士になるという自覚をもち、モチベーションを上げることを目的とする。 |
| 医用機器学実習 | 1 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 臨床現場で使用されている機器を実際に操作してもらい、臨床工学技士として必要な知識・技術を習得することを目的とする。 |
| 生体機能代行装置学実習 I | 1 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 血液透析に必要な透析液の組成、透析装置の洗浄剤、血液透析の原理について実験を通し知識を修得します。人工心臓装置の構成機器、部材を実際に使用できるように準備することを目的とします。また、シミュレーターを使用し、操作を体験し習得します。 |
| 医用治療機器学実習 | 2 | 45 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 2年前期までに修得した教科内容を整理し、理解を深める。医療機器に実際に触れ、操作、保守の基本を学習するとともに、ME機器の内部回路の理解を深める。 |
| 生体機能代行装置学（呼吸） I | 2 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | この講義では呼吸療法装置について学びますが、前期は第2種ME技術実力検定試験を視野に入れた内容となっています。呼吸生理学の復習から酸素療法、人工呼吸器や麻酔器の基礎について学びます。 |
| 生体機能代行装置学（代謝） I | 2 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 代謝系生体機能代行装置の中で、最も広く普及している人工腎臓装置について、その基礎的原理・構成・方法を理解し、修得することを目的とする。 |
| 生体機能代行装置学実習 II | 2 | 45 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 「血液浄化療法装置」「体外循環装置」について学ぶ。「血液浄化療法装置」は回路組み、プライミング、開始操作、返血操作、透析時のトラブル対応について学習する。「体外循環装置」については、ローラーの特徴、人工心臓の回路組み・プライミングなどの基本的な手技を身につけ、シミュレータを使用した実践的な操作方法も学習する。 |
| 医用機器安全管理学 I | 2 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 生体に関わる電気的特性と電撃の許容範囲や生体への影響にはじまり、医用機器の接地、絶縁方法、漏れ電流の種類と測定法、電力供給の方法、法令、医療ガスの種類と供給法について学ぶ。その他、医用機器に関連する注意事項や各種法令がどのような根拠で設定されているか、医療現場においては通常の機器の扱いと何が異なるか、等について学習する。 |
| 医用機器安全管理学実習 | 2 | 30 | 臨床工学技士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 近年、ME機器の中央管理が推進され、種々の機器を安全に使用できる状態に整備することが臨床工学技士の役割として比重が増してきている。そのような、多くの機器のなかで、生体機能代行装置として位置づけられている、人工呼吸器、除細動器の取り扱いを中心に安全管理面を中心に実習する。また、手術室で使用される電気メスの保守点検についても学ぶ。 |
| | 計 | 300 | | |